「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会ニュース・2025 年７月発行

つながる力

≪No.３０≫

25.4.10 奄美土砂搬出反対署名
第一次提出 60,621 筆
９月末を第三次集約とし署名を継続します

４月１０日、受け取りを渋る防衛省に、６万筆を超す署名の目録を手渡しました

奄美土砂搬出反対全国署名は昨年 12 月初旬に開始し５カ月足らずで６万名を超す筆数が寄せられました。署名集めに奔走頂いた市民の皆様に紙上を借りて心より感謝を申し上げます。

地域の環境破壊と引き換えに、軍事増強が図られている奄美そして沖縄の実態は、市民の多くには知らされないまま、奄美からの土砂採取・辺野古の埋め立てが強行されようとしているのです。

土砂全協では、９ 月末を第三次集約期限に署名を継続します。引き続きご協力をお願いします。

≪　目　次　≫

2025 年４月１１日付　南海日日新聞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
≪東京都≫　４月１０日　防衛省交渉・院内集会　・・・・・・・・・・・・・・・　中村利也　・・　3
総会記念講演―１　奄美の自然・生活環境を守ることが「辺野古」を止める！・・　北上田毅　・・　4
総会記念講演―２　奄美大島のソテツ被害に学び、外来生物対策の強化を！・・・　末田一秀　・・　5
総会記念講演―３　奄美大島のドローン調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・　奥間政則　・・　6
総会記念講演―４　瀬戸内海から海砂採取問題を考える　・・・・・・・・・・・・　湯浅一郎　・・　8
総会記念講演―５　奄美大島でのオスプレイ低空飛行の正体・・・・・・・・・・・湯浅一郎　・・　9
辺野古土砂全協第１２回総会報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　松本宣崇　・・10
辺野古土砂全協第 12 回総会参加者から　・・・・・・・・・・・・・　古庄弘枝　羽田ゆみ子　・・14
大浦湾軟弱地盤最深部の土質調査結果「隠蔽」を許さない！　・・・・・・・・・　北上田毅　・・16
2025 年６月１８日付　東京新聞「こちら特報部」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
≪沖縄県本部町≫　安和桟橋死傷事件から１年目の集会　・・・・・・・・・・・　原田みき子　・・18
沖縄からの便り２４　沖縄戦から８０年の現実・・歴史の逆戻りを止めよう！・・　浦島悦子　・・19
いんふぉめぃしょん　「沖縄・琉球弧の声を届ける会」連続講座第８回　ほか　・・・・・・・・・・20

写真提供　阿部悦子　毛利孝雄　奥間政則　原田みき子　松本宣崇

第25925号　2025年(令和7年) 4月11日　金曜日　南海日日

「奄美からの用材調達断念を」

防衛省に6万筆の署名提出

辺野古土砂全協

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設を巡り、埋め立て用石材・土砂搬出候補地などの9都道府県14の市民団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」（阿部悦子、大谷正穂共同代表）は10日、東京都千代田区の衆議院第二議員会館で、「奄美大島からの辺野古埋め立て用材調達を断念する」ことなどを求める5万9684人分の署名を防衛省に提出した。

署名活動は、昨年11月末から奄美大島のほか全国各地で開始。「世界自然遺産に登録された奄美大島からの埋め立て用材調達に向けた具体的な作業に入った。多くの採石場があり、住民は粉じん、振動、赤土流出による海の汚濁などに悩まされている。これ以上の奄美大島の生活環境・自然破壊は許されない」として、島からの石材・土砂調達の断念と、辺野古の埋め立て工事を直ちに中止するよう求めた。

防衛省は、協議会からの質問に対して「護岸工事などに使用する石材の調達を担う受注者が、土砂ではなく、石材の調達先を検討する中で奄美大島での調査を実施している」と認めたものの、具体的な調達先については「現時点では決まっていない」と回答。調査状況については「終了していないものと承知している」とした。

協議会は同日、衆議院第二議員会館で署名提出前に集会を開き、関係者ら約90人が参加した。福島瑞穂参院議員（社民党党首）も出席。

阿部共同代表は「2015年の1回目の5万筆を超える署名が集まった。奄美の人々の闘いを孤立させてはいけない」と強調。奄美大島から参加した「自然と文化を守る奄美会議」（薗博明会長）の城村典文事務局長は「奄美大島は世界自然遺産の島。アマミノクロウサギの生息地の山を崩して石を出すことに、奄美の人々は同意しない」と訴えた。

その他、協議会の防衛省交渉では、奄美大島上空の米オスプレイ飛行に対する質問もあった。同省は「米側は運用上の理由から明らかにしていない」とした。

防衛省に約6万筆の署名を手渡した辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部悦子共同代表（手前右から2人目）＝10日、東京都千代田区

4.10提出署名

用紙署名分

５８３４０筆

ネット署名分

２２８１筆

合　計

６０６２１筆

奄美からの土砂採取・辺野古への搬出反対します

署名は継続します　**第三次集約は９月末**

引き続き奄美土砂採取反対署名にご協力下さい！

25.4.11付け南海日日新聞（奄美大島の地元紙）
4月10日の奄美土砂搬出反対署名提出を大きく伝えました。

東京都

4.10 防衛省交渉・院内集会

奄美からの土砂搬出・「代執行」下の辺野古工事を問う

「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会　中村利也

奄美からの土砂搬出・「代執行」下の辺野古工事を問う　署名提出・政府（防衛省）交渉・院内集会が 4 月 10 日に衆議院第２議員会館で行われた。

主催は辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（土砂全協）。協賛は「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会、平和をつくり出す宗教者ネット、フォーラム平和・人権・環境、安保破棄中央実行委員会、許すな！憲法改悪・市民連絡会。

まず、政府交渉に先立って院内集会が開催され、冒頭、阿部悦子共同代表から挨拶があった。阿部さんはまず、「奄美大島から辺野古埋立てのための石材・土砂を調達しないことを求める署名」が 4 か月という短期間で約 6 万筆の署名が集まったことを報告。2015 年辺野古埋め立て用の土砂を西日本各地から搬出する計画が防衛省から発表され、「故郷の土を戦争に使わせない」を柱に土砂全協が結成された経過を話された。

沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんからは政府交渉のポイントが解説され、土砂全協顧問の湯浅一郎からはオスプレイの低空飛行について補足説明があった。続いて福島瑞穂参議院議員（社民党）と城村典文さん（自然と文化を守る奄美会議）から挨拶があり、防衛省交渉に移った。

まず、土砂全協から約 6 万筆の署名が提出、宗教者ネットからも独自な署名約 3 万筆が提出された。

防衛省に対しては、埋立て用材調達問題、土質調査、大浦湾で始まった工事の問題点、安和桟橋出口部での死傷事故の原因究明と安全対策、奄美大島におけるＭＶ22 オスプレイの低空飛行訓練ルートについて五つの質問が事前に提出してあった。しかし、回答は当日に届くという怠慢な態度。内容も、埋め立て土砂の調達先は決まっていない、護岸工事に使用する石材の調達は受注者が埋立て土砂ではなく石材の調達先を検討する中で奄美大島での調査を実施している、昨年 8 月の土質調査は地盤の状況把握のためで（軟弱地盤が最も深い）B27 地点では行っていない、オスプレイの飛行ルートについては答えられない、米軍機の訓練は我が国の防衛にとって重要など、これ迄と同じ回答に終始し、再質問にも同じ回答を繰り返すだけだった。

交渉終了後、同じ会場で、国会包囲実行委員会主催、土砂全協と宗教者ネット協賛の講演集会が開催され、北上田さんが講演を行った。北上田さんは、防衛省が同じ回答を繰り返すだけで数多くの疑問に何ら答えていないと批判、今後も厳しく追及していくことの必要性を訴えた。（25. 6. 28）

奄美の自然・生活環境を守ることが「辺野古」を止める！

◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉　辺野古土砂全協顧問・沖縄平和市民連絡会　北上田　毅　◉◉◉◉

●「辺野古」の工事の現状 ― 地盤改良工事が始まったが、工事は大幅に遅れている

一昨年 12 月、設計変更申請を国土交通大臣が知事に代わって承認し、昨年１月から大浦湾で、大型ケーソンの仮置場となる海上ヤード工、大量の鋼管杭を打ち込む A 護岸工等の工事に着手した。今年に入ってからは、地盤改良工事も始まり、今、大浦湾には６隻のそびえるような高さ（約 70m）の地盤改良船が密集している。他にも、土砂運搬のガット船、海砂運搬船、浚渫船、海底への砂撒船等もひしめき合っている。これらの工事現場からは一面に汚濁が広がり、貴重な大浦湾の自然環境は今、致命的に破壊され始めている。

しかし、防衛局の工事は決して順調に進んでいるわけではない。埋立土砂投入はまだ辺野古側だけにとどまり、この６年半で全体量の 18%の土砂が投入されたにすぎない。地盤改良工事の砂杭打設も、本年５月末で 2800 本と遅れている（砂杭総本数は４万７千本）。設計変更申請の、「工事期間：９年３ケ月」という沖縄防衛局の計画は既に不可能、それどころか、事業が頓挫する可能性もある。

大浦湾の地盤改良船

●沖縄南部地区、奄美大島からの土砂調達を止めれば、「辺野古」は頓挫する

防衛局の設計変更申請書では、沖縄南部地区を埋立土砂調達の中心地とする計画だった。しかし、沖縄南部地区の土砂には戦没者の遺骨が混じっているとして、沖縄だけではなく、全国からも反対の声が沸き上がった。そのため浮上してきたのが、奄美大島からの土砂・石材の調達計画である。防衛局の計画では、奄美大島からは 1,190 万㎥（ダンプトラック約 250 万台分）もの土砂調達が可能としている。

沖縄県には、公有水面埋立に際して、県外から埋立用材を搬入するには、特定外来生物の侵入を阻止するための土砂条例がある。申請者は、事前に特定外来生物の調査を行い、搬入の 90 日前には県に対策等を届出なければならない。

防衛局は昨年８月、鹿児島県や奄美大島の４市町村を訪問、調査について説明した。９月になって、採石場や土砂搬出港で調査を実施したが、何故か、今も、県に土砂条例の届出は行われていない。

考えられるのは、調査で特定外来生物が見つかり対応策に苦慮しているためと思われる。土砂は洗浄できないので、駆除することができない。デニー知事は土砂条例に基づき、搬入の中止を勧告することになり、埋立計画は頓挫、若しくは大幅に遅れる。

ただ、土砂条例は「勧告」にとどまるので、強制力がない。沖縄県は今までに 53 回の行政指導を行ったが、防衛局はその全てを無視し、工事を強行してきた。今回も、県の対応・市民の動き等を見て、場合によっては、知事の中止勧告を無視して、土砂の搬入を強行しようと考えている可能性がある。

奄美大島では、約 40 年近く、採石場の公害に住民は苦しめられてきた。さらに、辺野古への土砂調達が始まれば、奄美大島の貴重な自然、生活環境は壊滅的に破壊される。何としても止めなければならない。　　（2025.6.29）

＊　６月 10 日、台風情報のためか、６隻の地盤改良船は奄美大島等に避難した。しかし、３週間が経過した今も、何故か、大浦湾に戻っていない。地盤改良工事に技術的な問題が発生している可能性がある。

奄美大島のソテツ被害に学び、外来生物対策の強化を！

◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉ 辺野古土砂全協顧問　末田一秀 ◉◉◉◉

奄美大島を象徴する植物であるソテツが大規模に枯れ死していることは、前号で阿部さんらが報告している。今回、総会で奄美を訪れ自分の眼で見てみると、被害の深刻さや防除のための努力の後もうかがえた。そう、外来種のカイガラムシ（ソテツシロカイガラムシ）が、葉の裏などに寄生し、吸汁することによってソテツが枯れてしまうのだ。実際、ソテツの葉を裏返してみると、小さな白い石のように見えるカイガラムシがびっしりくっついている木を何本も見ることになった。

ソテツシロカイガラムシはもともと東南アジア産で、ハワイ、グアム、アメリカ大陸等に拡がって被害を拡げている。もともとその地域にいなかった生物が侵入すると天敵がいないなどの条件で爆発的に繁殖するおそれがある。

私たちは辺野古の埋め立て土砂を沖縄以外から搬入すると外来生物が持ち込まれる危険性を指摘し、そのために沖縄県で 2015 年に制定された「埋立用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」（沖縄県土砂条例）の改正強化を、再三議会陳情を提出するなどして訴えてきた。少しおさらいしておくと、土砂条例が対象にしているのは外来生物法が指定しているもの「特定外来生物」だけで、生態系に影響を与える多くの「非特定」の外来生物をカバーできていないことが、沖縄県の自然保護課長も認めざるを得ない課題だ。沖縄県が、2019 年に実施した調査では、土砂搬出予定地で土砂条例では規制されない種が動物 42 種、植物 134 種確認されている。沖縄県は、土砂埋立用材に混入するような非意図的な持込みではなく、観光客や収集家などによる意図的な持込みの場合には「非特定」の外来生物も規制できるように 2019 年に希少野生動植物保護条例を制定している。私たちの要求が正しいことは、完全に証明された形だ。

総会記念講演で、以上のような問題を振り返り、沖縄県議会が「特定外来生物以外に広げる余裕が沖縄県にあるのか」などと懸念を示していることに対しても「土砂採取業者の負担が増えるだけで、届出書の確認作業は現行条例と同じのため沖縄県の負担が増えるわけではない」と批判を行った。しかし請願が採択されない本当の理由は、自公が過半数を占める県議会が、土砂条例の改正要求は辺野古反対のためと捉えているという政治的な思惑によるところが大きいのだろう。土砂条例の目的は、外来生物による被害の防止であり、辺野古埋立て阻止ではないと言いながら、請願提出団体がなにせ「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」なんだからそう思われて当然だ。そのため、改正の必要性を認めている県当局が消極的であることも条例改正要求が実現しない要因のひとつだろう。

私たちは奄美大島のソテツのような被害を防止するために外来生物対策をきちんとやろうとすれば、土砂を洗浄することなどできず、大量の土砂を加熱処理することもできないため「結果的に？」県外から運べないとなることを期待して要求している。停滞している条例改正運動、壁をどう打ち破っていくのか妙案はないが、声をあげ続けていく。　　（2025.6.30）

土砂全協では、5 月２６日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界遺産地域包括的管理計画（改定案）」へパブコメ意見を提出しました。詳細次号。

奄美大島のドローン調査

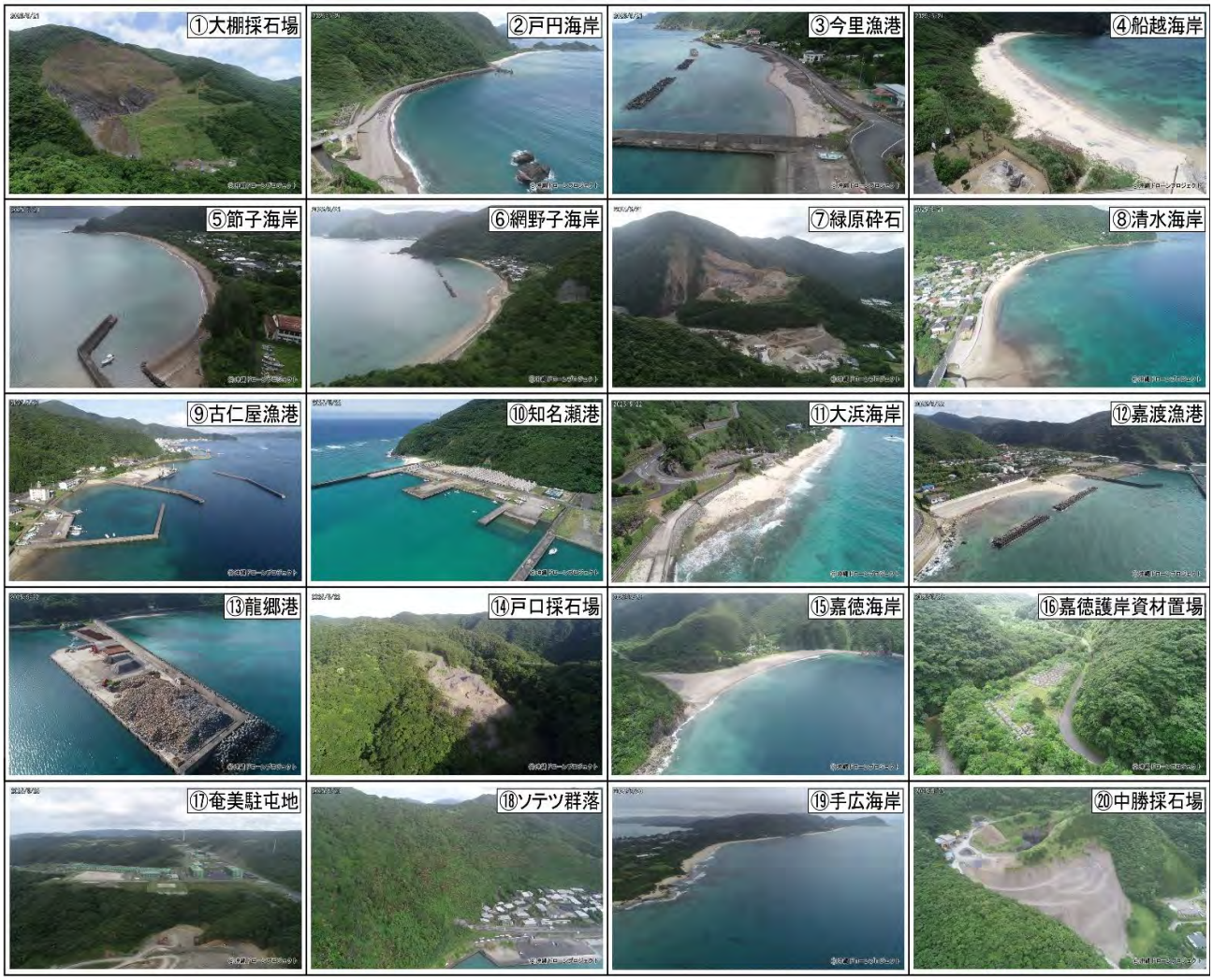
沖縄ドローンプロジェクト　奥間政則

2024 年 7 月 12 日に大宜味村の吉浜覚議員と沖縄ドローンプロジェクトの奥間が実施した大宜味村大兼久沖の海砂採取船のドローン調査は、海砂採取がいかに環境に深刻な影響を与えるのかがわかる現状を捉えた。沖縄県では陸から 1km 以上の沖合で海砂を採取しているが、写真を見てもわかるように海砂採取によって大量の濁り水を発生させていた。このドローンで捉えた写真を県の海岸防災課に報告すると、海岸防災課もこのような現状を把握してなかった。

奄美大島の調査は辺野古にも関係していて、この調査に先立ち、土砂全協の阿部悦子さんが今年の 2 月 8 日と 9 日に沖縄の本部町と名護市で奄美大島の海砂採取によって至る所で浸食が起きている現状が報告された。その後、土砂全協から依頼を受けて奄美大島のドローン調査を実施することになり、5 月 24 日に奄美大島で開催される土砂全協の総会で報告するために、5 月 21 日から 23 日までの 3 日間、現地に詳しい城村典文さんに案内してもらい、主要な海岸８箇所、漁港３箇所、建設資材の仮置場の港２箇所、土砂の採掘箇所４箇所、奄美駐屯地などの調査を行った。陸上からの調査とは違い、ドローンは上空から俯瞰して全体の状況が把握できることが大きな特徴である。

採石場は大雨時の土砂流出対策がされていないため、濁り水が海を汚染しているようだ。奄美大島からの辺野古に搬出予定の埋立土砂は当初 530 万㎥となっていたが、変更後は 1190 万㎥と倍以上の土砂が辺野古に搬出されることになるため、今後山の環境が破壊されることが危惧される。

海岸や港の調査は海砂採取によって、どれだけ浸食が進行しているのかは 1 回のドローン調査ではわからないので、本来なら定点観測が必要である。　　(2025. 7. 1)



辺野古・海のテント村 中村吉且（なかむらよしかつ） さん

『沖縄 壊死する辺野古の風景』シリーズ3　7月末刊行

沖縄 壊死する辺野古の風景 シリーズ3

壊される 海・山・人

A4判56頁 オールカラー 7月下旬刊行予定・頒価500円

主な内容

- **消えた「辺野古が唯一の解決策」**
- **米海兵隊が欲しいのは 係船機能付護岸と弾薬搭載エリア**
- **目で見る大浦湾の工事船**
- **海砂問題・宮古島からの土砂搬出・奄美大島からの土砂は？**
- **これが「法治国家」の実態 国が隠ぺいを図る6.28安和桟橋死傷事故！**

沖縄
壊死する辺野古の風景
シリーズ2
よくわかる
辺野古

大好評発売中！
（2024年5月発行 現在4刷）
A4判56頁
オールカラー

ご注文は

メールアドレスtandy0310@live.jpまたは☎09035245425　まで　発行人　中村吉且（なかむら　よしかつ）
送料＝1～5冊　430円　6冊～10冊　860円　11冊以上　着払い　住　所　沖縄県名護市安部117-101
（携帯電話につきましては、非常に電波の悪い場所に住んでいるためつながらない場合があります）

瀬戸内海から海砂採取問題を考える

― 海砂採取は生物多様性保全に逆行する ―

環瀬戸内海会議共同代表　湯浅一郎

21 世紀に入り海砂採取は禁止に向かっている

大浦湾の地盤改良工事で、初期において大量に必要なのは敷砂や砂杭のための海砂である。当面、沖縄島の周辺から供給するとされる。しかし、これ自体が、海砂採取に関する近年の全国的な傾向に逆行している。海砂採取は、日本の高度経済成長とともに急増し 1980～1990 年にかけてピークとなり、21 世紀に入り減少していった。採取が最も多かった瀬戸内海では、1998 年の広島をスタートに 2006 年までに全面禁止となった。今、残っているのは九州・沖縄で、それも減る方向にある。

これは 1992 年地球サミットで生物多様性条約が採択された国際的動向とも符合している。瀬戸内海では海岸線の砂の流出から始まり、特にイカナゴの産卵・夏眠の場を奪う海砂採取は、結果として生態系ピラミッドを変質させる破壊的な行為であった。食物連鎖においてイカナゴは低次生態系の要に位置する。海砂採取でイカナゴが減ると、クラゲの異常繁殖、スナメリの減少など食物連鎖構造を大きく変え、生態系全体の変化が起きた。＜自然は縫い目のない織物（シームレス）＞であることの必然的な結果である。

海洋保護区での海砂採取は禁止すべきだ

沖縄島や奄美大島での海砂採取海域は生物多様性保全の海洋保護区が含まれている。環境省は、2011 年 5 月、「海洋生物多様性保全戦略」において生物多様性の保全を目的として、海洋保護区を以下のように定義した。

海洋保護区とは：

海洋生態系の健全な構造と機能を支える生物多様性の保全及び生態系サービスの持続可能な利用を目的として、利用形態を考慮し、法律又はその他の効果的な手法により管理される明確に特定された区域

その結果、共同漁業権区域、自然公園法区域、鳥獣保護区などを海洋保護区としている。

国際データベースから、日本における海洋保護区を抽出することができる。図１は沖縄島の海洋保護区と海砂採取海域を示したものであるが、相当程度、重なっていることがわかる。海砂採取は、瀬戸内海の経験からも生物多様性を破壊する行為であり、生物多様性の保全を目的とした海洋保護区では禁止されるべきである。ところが本来、＜海洋保護区で生物多様性を低下させる行為は禁止＞されるべきであるが、残念ながら環境省は何の法的規制もかけようとしていない。未来に生きる場を残していくために、「生物多様性国家戦略 2023-2030」に反する行為を止めていかねばならない。　(2025.6.29)

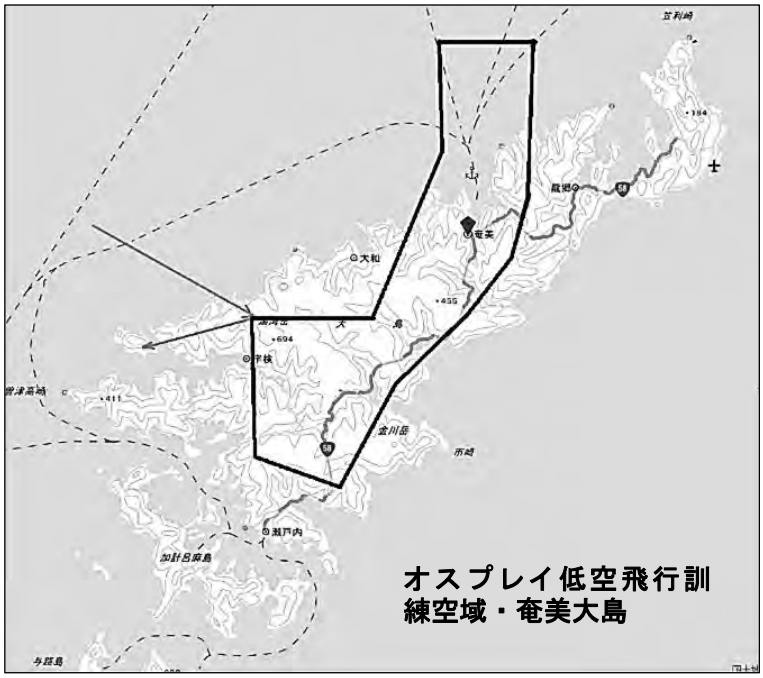
奄美大島でのオスプレイ低空飛行の正体

― 安部(あぶ)墜落事故調査報告書から見えること ―

ピースデポ前代表　湯浅一郎

辺野古埋立て用材の多くを奄美から持ち出す計画が再浮上しているが、普天間配備の MV22 オスプレイの目撃が奄美で日常化していることの意味を考えると、辺野古新基地建設は奄美にとり自分事であることが見えてくる。

◆奄美大島上空に オスプレイの低空飛行訓練ルートがある



今、米軍オスプレイが、奄美大島で日常的に目撃されている。その正体は何か。その答えが、2016 年 12 月 13 日、名護市安部の海岸に墜落したオスプレイの事故報告書（2017 年 9 月 11 日）の中にある。この点はリムピースの故・頼和太郎氏が詳細に分析し、「安部墜落オスプレイの事故報告書を読む」(1) ～ (5) にまとめている。まず主文第 177 節に「ドラゴン 06 機（事故機）は、奄美低空飛行訓練ルートを高度 500 フィート、速度 240 ノットで飛行していた」とある。原文には「AMAMI LAT Routes」（奄美 LAT ルート）とある。ここで LAT とは「Low Altitude Tactics」(低高度戦術) なので、意訳すれば「奄美低空飛行訓練ルート」となる。さらに飛行計画コースを記した付属資料 20 から、事故機が普天間を離陸してから、どの方向に何海里飛んだのかがわかる。それをつないでルート図にしている（報告書にこの図はない）。このルートは、奄美大島の世界自然遺産地域上空を何度となく飛行することになり、仮に墜落して火災でも起こせば世界遺産の貴重な生態系に大きな影響をもたらすことが懸念される。

◆鹿児島県を動かし九州・沖縄知事会で奄美ルートの撤回を政府に要求させよう

2025 年 4 月 10 日の防衛省交渉で 安部事故報告書に何度も登場する「Amami LAT Route」とは何か？を政府に初めて問うてみた。防衛省は「米軍機は、一定の飛行経路を念頭に置いて飛行することがあると承知しているが、具体的にどのような経路を飛行しているか等の詳細については、米側は、運用上の理由から明らかにしていないため、お答えできない。」とピントはずれの回答であった。政府は、これを認め、米軍に奄美ルートの撤回を求めるべきであるが、何もしようとしていない。

この状況を打開するには地元から声を上げ、鹿児島県を動かすことが重要である。中国地方では中国知事会が低空飛行訓練の中止を長年にわたって求めてきた。鹿児島県に安部事故報告書の該当箇所を示し、「これは何か」を九州知事会で共有し、住民の安全と健康を守るため、政府にルートの撤回を突き付けていくよう求めるべきである。

(2025.6.29)

辺野古土砂全協第 12 回総会報告

辺野古土砂全協事務局長　松本宣崇

５月 24 日、奄美大島で開催された辺野古土砂全協第 12 回総会は、正会員１６団体中、出席１０団体（うちオンライン出席１団体、委任状提出２団体）で過半数が出席し成立しました。2024 年度活動報告・決算を承認の上、2025 年度活動方針・予算、そして 2025～26 年度役員を、以下の通り可決した。

役員改選に先立ち阿部共同代表より、宮城島からの土砂採取が強行されているうるま市島ぐるみ会議が当会への加盟の表明・申し出があり、照屋寛之氏が当会役員の任に就くことになったと報告があり承認した。

「力合わせ政府と交渉を」

辺野古土砂全協が講演会

奄美大島

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設を巡り、埋め立て資材搬出地など18の市民団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（土砂全協）」（阿部悦子、大谷正穂共同代表）の講演会が24日、奄美市名瀬のホテルであった。土砂全協の顧問ら4人が辺野古の現状や奄美大島からの埋め立て用材搬出の問題点を指摘。「力を合わせ計画断念に全力を」と声を上げた。

土砂全協は2015年に奄美大島や瀬戸内海などの住民、環境保護団体が奄美市に集い結成。6年ぶりに同市で総会と講演会を開催した。講演会では土砂全協の北上田毅顧問、湯浅一郎顧問、環瀬戸内海会議の末田一秀副代表、沖縄トローンプロジェクトの奥間政則氏が登壇。会員や地元住民ら約50人が聴講した。

沖縄防衛局への情報公開請求で軟弱地盤の存在を指摘した北上田顧問は「埋め立て開始から6年半で投入土砂量は約1%。このペースでは埋め立て完了まで37年かかる」と工事の長期化を指摘。「防衛省は奄美での調査を『石材調達』と説明するようになった。土砂は洗浄できず特定外来生物の駆除策がないため、沖縄県の条例で知事が搬入中止を勧告できる。奄美からの搬出を止めれば辺野古工事は頓挫する」と訴えた。

防衛省は3月11日の会見で「奄美大島で埋め立て土砂搬出に向けた調査を開始した事実はない。護岸工事などに使用する石材調達を担う受注者が、調達先を検討する中で調査している」と説明していた。

土砂全協は「奄美大島からの辺野古埋め立て用材調達を断念する」ことなどを求める署名活動を全国で行い、4月10日に約6万筆の署名を防衛省へ提出した。「自然と文化を守る奄美会議」の城村典文事務局長は「奄美群島で集めた署名は1000筆以上」と述べた。

総会は26日まであり、25日は島内の採石場や陸上自衛隊瀬戸内分屯地などを巡る。

奄美大島からの埋め立て用資材搬出を巡る問題点などを確認した辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の講演会＝24日、奄美市名瀬

１）　2025 年度活動方針

❶　奄美の石材（及び土砂）を持ち込ませない

奄美大島の石材・土砂の搬出が計画されています。土砂採取による周辺環境被害、特定外来生物の混入、現地の人たちと力を合わせこの計画を断念させるため全力を挙げます。署名活動も継続します（第三次集約は９月末)。そのためにリーフレットを作成、配布します。

❷　海砂採取を止めよう

軟弱地盤改良のためには大量の海砂の調達が必要になります。海砂採取は海洋環境の破壊が避けられません。閣議決定している「生物多様性国家戦略２０２３－２０３０」の徹底を政府に求め、瀬戸内での実績などを参考に、野放図な採取をさせない世論喚起を図ります。

❸　政府交渉を続けよう

沖縄県外はもちろん、沖縄県内での土砂採取を許しません。各地の団体と連携しこれらの問題での政府との交渉に臨みます。

❹　遺骨混じり土砂を使わせない

沖縄戦激戦地の南部では土砂に遺骨が混じることは避けられません。世論も注目し各地の議会などでも反対の議決が相次ぎ（全国 229 議会意見書提出)、防衛省の強行にブレーキをかけています。土砂がなければ埋立てはできません。遺骨混じりの土砂を大浦湾に沈めることに反対します。

❺　沖縄県に対し大浦湾一帯の埋立て承認の再度の撤回を求めよう

大浦湾及び辺野古沖一帯は共同漁業権第 5 号区域（名護市東岸地域）の一部であり、日本型海洋保護区です。埋立て予定地は漁業権が放棄され海洋保護区から外されていますが、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」に含まれていることを活かして「大浦湾一帯を海洋保護区とする」よう求めます。その上で沖縄県に対し、上記の観点に沿って再度の埋め立て承認の撤回を求めます。それによって、生物多様性国家戦略を推進する立場にある政府の国家戦略に反する犯罪的な行為を止めていきましょう。

❻　裁判を支える

大浦湾周辺住民の「代執行の取り消しを求める住民の訴訟」や市民による「軟弱地盤土地調査文書の隠蔽（開示大幅延長）に抗議する訴訟」などを支え、大浦湾埋め立て承認の撤回を求め続けます。

❼　「島々を戦場にするな」の思いに呼応し、「本土」での戦争準備を止めよう

政府やマスコミが「台湾有事」を煽り、「南西諸島」の軍事要塞化を進めるなか、西日本にも弾薬庫やミサイル配備、民間空港や港湾での戦争準備～戦争への後方体制の構築～が拡大しています。私たちは「本土」での戦争準備をやめさせることで、沖縄を攻撃拠点とする戦争の開始・戦場化を止める行動をしていきます。

❽　連帯してすすもう

会員の皆様、ご支援くださる皆様にたってのお願い

辺野古土砂全協は創立から満 10 年、個人・団体会費と皆様のカンパに支えられ活動してきました。

皆様方のこれまでのご理解ご支援に深く感謝申し上げます。とはいえ、土砂全協資金状態は 2024 年度決算書に見るごとく、極めて逼迫した状態は続いています。これまでに増してのご支援を賜りますようお願い申し上げます。同封の振替用紙をご利用ください。

年会費　　団体：10,000 円　　個人：　3,000 円

郵便振替　　口座番号　０１７５０-8-１４４１５８　名義　辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

2）　2024 年度収支決算報告並びに 2025 年度予算案

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
第10期（2024.4.1～2025.3.31）予算及び決算
並びに次期、第11期（2025.4.1～2026.3.31）予算案

	勘定科目	補助科目	第10期 予算	第10期 決算	第11期予算
収入	前期繰越		194,865	194,865	2,656
	会費		2,050,000	1,617,560	1,560,000
		団体年会費	100,000	110,000	110,000
		個人年会費	900,000	870,000	950,000
		協賛団体	50,000	40,000	50,000
		総会参加費等	1,000,000	597,560	450,000
	事業収入		200,000	62,298	150,000
		リーフレット販売	100,000	0	100,000
		オンライン講座	100,000	61,298	50,000
		物品販売	0	1,000	0
	寄付・カンパ		850,000	1,277,971	1,250,000
		寄付カンパ	850,000	1,236,720	1,200,000
		奄美署名支援	0	41,251	50,000
	雑収入		10	2,899	100
		雑収入	0	2,775	0
		受取利息	10	124	100
合　計			3,294,875	3,155,593	2,962,756

	機関紙費		1,165,000	945,540	1,270,000
		封筒・振替用紙	15,000	88,319	50,000
		印刷費	720,000	556,860	800,000
		発送費	430,000	300,361	420,000
	会議費		1,018,000	854,201	468,000
		総会費	1,000,000	854,201	450,000
		役員会	18,000	0	18,000
		集会開催費	0	0	0
	旅費交通費		200,000	336,404	200,000
	通信費		15,000	218,150	160,000
	事務消耗品費		1,000	12,718	10,000
	新聞図書費		2,000	750	2,000
	支払手数料		4,000	5,120	5,000
	寄付金		100,000	100,000	100,000
	物品仕入～リーフレット作成費		30,000	0	70,000
	広告宣伝費～奄美署名用紙印刷費		0	109,264	0
	情報発信強化費		360,000	360,000	360,000
	振替通知料金		15,000	20,790	20,000
	塩川へ助成支出		200,000	190,000	200,000
合　計			3,110,000	3,152,937	2,865,000
当期残高（次期繰越金）			184,875	2,656	97,756

監　査　報　告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第10期（2024年度）会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監　査　五宝光基　　監　査　土居立子

3）　2025～26 年度役員改選について

土砂全協役員の任期は規約に基づき 2 年であり今総会の閉会をもって任期満了となるため、役員会として以下のように、次期 2025～26 年度役員を提案し了承された。

共同代表　**阿部悦子（環瀬戸内海会議）　大谷正穂（辺野古に土砂を送らせない！山口のこえ）**

顧　　問　**北上田　毅（沖縄平和市民連絡会）　湯浅一郎（ピースデポ・環瀬戸内海会議）**

末田一秀（環瀬戸内海会議）

事務局長　**松本宣崇（環瀬戸内海会議）**　財政を兼任

事務局次長　**立田卓也**　事務局員　未　定

会計監査　**五宝光基（辺野古に基地をつくらせない香川の会）　土居立子（環瀬戸内海会議）**

役　　員　**浦島悦子（島ぐるみ会議名護）　城村典文（自然と文化を守る奄美会議）**

當島勝文（徳之島）　柴田天津雄（辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会）

冨田恒子（小豆島環境と健康を考える会）　歌野　敬（五島列島自然と文化の会）

毛利孝雄（辺野古土砂搬出反対!首都圏グループ）　安部真理子（海の生き物を守る会）

磨島昭広（鹿児島に米軍はいらない県民の会）　大坪満寿子（南大隅を愛する会）

新田秀樹（広島と沖縄をむすぶドゥシグヮー）　森　紘道（自然と文化を守る奄美会議）

溝渕裕子（辺野古に基地をつくらせない香川の会）　松本秀樹（辺野古土砂ストップ北九州）

間　　司（「辺野古埋め立て土砂搬出反対」熊本県連絡協議会）　以上 15 名留任

崎浜静子（本部町島ぐるみ会議）　照屋寛之（うるま市島ぐるみ会議）　新任

25.5.25～26 奄美大島視察点描

25.5.25 戸玉集落　住宅の直近に採石の山

25.5.25 住用市集落前の海岸は今も濁りが

25.5.25 旧陸軍弾薬庫跡

25.5.25 嘉徳海岸

25.5.25　自衛隊瀬戸内分屯地
自衛隊車が尾行してきたことに気付き猛抗議！

25.5.26 住用湾マングローブ林でカヌー体験

辺野古土砂全協第 12 回総会参加者から

☆　初めての土砂全協総会参加・奄美大島訪問　嘉徳海岸を見学して　☆

東京都から参加　　古庄弘枝さん

・広い砂浜を素足で歩く

「アマミノクロウサギの飛び出しに注意」などの看板を横目に、城村典文さん（自然と文化を守る奄美会議・事務局長）のウイットに富む案内に耳を傾けながら、奄美の森の中をぐんぐん下がっていくと海があった。そこが、嘉徳海岸だった。

あまりに砂浜が美しく、足も疲れていたため、さっそく靴と靴下を脱いで素足になり、浜を歩いて海水に足を入れた。時間があったら、海の中に入って泳ぎたい気分だった。どこまでも広がる白い砂浜、そこに流れ込んでいる嘉徳川、海岸に茂るヒルガオやアダンの木々。

・自然遺産の中に護岸建設

2021 年 7 月、ユネスコは「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」を世界自然遺産に登録した。その際、嘉徳浜はバッファーゾーン（遺産周囲の利用制限区域）に位置づけられ、嘉徳川は「奄美大島で人工物のない唯一の河川」と評価されている。

2002 年にオサガメ（1 億年以上前から地球に生息する絶滅危惧種）の産卵上陸が日本で唯一記録されたことから「ジュラシック・ビーチ」とも呼ばれる嘉徳浜海岸。アマミノクロウサギやアマミハナサキガエルなど、希少生物が数多く生息する場所だ。

その海岸に、自然災害から町を守るためという理由で、浜の真ん中に高さ６ｍ、幅 180ｍのコンクリート製護岸の建設が計画されている。

・座り込み、アダンの植樹などで反対運動を続ける

この海岸を守り、生態系を壊したくないと活動しているのが「奄美の森と川と海岸を守る会」だ。代表は、ジョン・マーク・高木さん。彼はフランス人の父と熊本出身の母をもち、18 歳までフランスで育った人。サーファーでもある彼は、「この場所こそ、ずっと求めていた楽園だ」と、グーグル検索で嘉徳海岸を見つけてから、2010 年に初めて嘉徳地域を訪れた。護岸建設計画を知った 2015 年からは座り込みなどの反対運動を続け、海岸にアダンの植樹などを行ってきた。会の中心メンバーはマークさんと連れ合いの武久美さん、山北のりひこさん（ジャンベ奏者）と連れ合いの皆吉えりこさん。

彼らは、護岸工事の差し止めを求めて、県を相手に裁判（公金支出差し止め訴訟）を行ってきたが、5 月 23 日、最高裁で県側の勝訴が確定した。嘉徳海岸を守るには全国民、全世界がこの海岸の価値を知ることが最低限、欠かせないと実感した。（25. 6. 16）

☆　奄美大島の海砂採取問題を知って　☆

長野県から参加　　羽田ゆみ子さん

海のない長野県に生まれ育った私は、海への憧れをずうっと持っています。海は青く美しく、白い砂浜が続き、海から生き物が上がってきた、海からの風は、人びとに慰めと安らぎを与えてくれる。陸とつながる大量の水。この循環が地球環境を支えていると。

海砂採取によって海が少しずつ壊されている――環瀬戸内海会議共同代表の湯浅一郎さんは、瀬戸内海の海砂採取によるイカナゴの激減について具体的に語ってくれました。

真空ポンプによる強制吸い上げにより、海の底に住む生物を丸ごと吸い取り、フルイで濾して濁水を放出するという。やり方が乱暴ですねえ。その濁水の中には、イカナゴや数々の海にすむ生物の卵が含まれているのです。

瀬戸内海では、1998 年 2 月に広島県が海砂採取を全面禁止し、2006 年 4 月には愛媛県も全面禁止となったそうです。長い年月の市民運動の成果ですね。

翻って、奄美大島の海岸線沿いの海はすべて「生物多様性の保全」する海洋保護区になっています。しかし海岸から 500m では、規制が甘いと湯浅さんは指摘するのです。建設骨材のために、アセスメントも行わずに、世界自然遺産の島、かけがえのない海を壊していいのでしょうか。

私が住む長野県佐久市は、鹿害の問題と向きあっています。農家にとっては死活問題です。しかし、駆除で解決できるのか。駆除も実際には難しいのですが、そういう解決の仕方で、つまり今だけ、金だけ、自分だけ（人間だけ）で進んできた私たちの世界が問われているのではないか。生物多様性、生態系のことは考えずに。奄美の地図を広げて眺めていましたら、ヤギ島を見つけました。奄美にも食用のためにヤギが飼育されていたんですね、増えすぎて駆除されたようです。さて私は今、友人たちとヤギを飼おうとしています！

鹿児島に住む友人の岩崎わかさんから、奄美大島で全国土砂全協総会が開かれることを聞き、今年こそはと申し込み、奄美で様々な人と、ここで起きていることを知ることができました。この小さな島に陸自海自空自が駐屯していることも知りました。人びとの中から反対の声がなかなか上がりにくいということも知りました。でも人々が諦めずに恐れずに声を上げていることも知りました。阿部悦子さん、皆さん、かっこいいです。またお会いするのを楽しみに！　（2025.7.3）

2025.5.26 沖縄タイムス

新基地土砂「奄美壊す」

反対協視察 現地住民訴え

18年の搬出打診 証言

【奄美市で塩入雄一郎】鹿児島・沖縄両県などの市民団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（土砂全協）」は25日、政府が名護市辺野古の新基地建設に伴う埋め立ての資材調達先として検討している鹿児島県・奄美大島の採石場や搬出予定港を視察した。地元の人から「辺野古へ土砂搬出されることになれば、自然破壊が進む」と懸念する声が聞かれた。

土砂全協のメンバーは奄美の中心部から20キロほど離れた山間瀬戸玉地区へ。積み出し場には、高さ3層超の土砂石材の山がいくつもあった。案内した戸玉区の浦口二弘区長によると、民間の採石場の土砂搬出作業に伴う騒音や粉じん、振動などの公害に30年以上にわたって悩まされ続けてきたという。

新基地建設の土砂を巡っては、県内の土砂を投入しているが不足しつつあり、山間瀬戸玉地区の積み出し場で土砂搬出に伴う公害について説明する浦口二弘さん（83）。現場には土砂が野積みされていた＝25日、鹿児島県奄美市

政府が奄美大島で採掘した土砂の使用を検討していることが昨年、明らかになった。

浦口区長は「2018年に辺野古の関連業者から『土砂を辺野古に出したい』と協議を求められた」と証言。昨年来、特に変わった動きはないが、「また土砂搬出が激しくなる可能性がある。これ以上利用されるのは無理だ」と訴えた。

土砂が切り出され、むき出しになった採石場の山肌＝奄美市

一行は地対艦ミサイル部隊がある陸自瀬戸内分屯地も訪れた。島には沖縄同様、南西シフトで陸自部隊が次々と配備され、米軍との共同訓練も行われるようになった。「最近では（米海兵隊の移動式ミサイル発射機）ハイマースがぼうもかけずに国道58号を走る。オスプレイもしょっちゅう飛んでいる」。同市の城村典文さん（72）は現状をそう説明した。

港近くの採石場は赤茶色の山肌が数十層にわたってむき出しになっている。別の採石場近くでは流出した土砂で海が濁っていた。

奄美市在住の佐竹京子さん（83）は「この辺りは神聖な場所で、琉球王朝時代から最近まで首里に向かって拝む人がいたのよ」と古くから続く沖縄とのつながりを話した。

沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんは「これ以上奄美大島の自然環境破壊をさせるわけにはいかない。辺野古を止めることは奄美を守ることにもつながる」と語った。

大浦湾軟弱地盤最深部の土質調査結果の「隠蔽」を許さない！

1年7ヶ月もの公文書開示決定期限延長に抗議する「違法確認・開示義務付訴訟」のご支援を

辺野古土砂全協顧問　沖縄平和市民連絡会　北上田　毅

先日の総会で、今年度の土砂全協の活動方針の一つとして採択された情報公開訴訟について説明します。

●私は本年１月３日、沖縄防衛局長に対して、沖縄防衛局が辺野古新基地建設事業の一環として昨年から大浦湾で実施している土質調査に関する文書の公文書公開請求を行いました。

情報公開法第 10 条では、「開示決定等は、開示請求があった日から 30 日以内にしなければならない」、「正当な理由があるときは、30 日以内に限り延長することができる」と定めています。すなわち、少なくとも 60 日以内で開示決定しなければならないのです。

ただ、同法第 11 条（期限の特例）では、「文書が著しく大量である場合」は、「相当の部分につき当該期間内に開示決定等をし、残りの行政文書については相当の期間内に開示決定をすればよい」とされています。今回の文書は、実際にはたいした量ではないのですが、沖縄防衛局長は、「文書が著しく大量である場合に該当する」として、開示決定期限を１年７ヶ月も先の来年８月 28 日としてしまったのです。

そして請求から 60 日が経過した３月７日、法 11 条の「相当の部分」として、「シュワブ（R５）C1 護岸新設等工事」の特記仕様書の表紙１枚だけが開示されました。特記仕様書全文は既に 2023 年 12 月に国会議員に提供されているのですが、今回、その表紙１枚だけを出してきたのです。これが「相当の部分」でしょうか？　余りにもふざけた対応と言わざるを得ません。

●防衛局は、私の公文書公開請求に対して、何故このような開示決定期限の大幅延長をしたのでしょうか？

辺野古新基地建設事業で沖縄県知事が防衛局の設計変更申請を不承認とした最大の理由は、防衛局が、海面下 90ｍまで軟弱地盤が続いているＢ27 地点で、地盤の強度を直接調べるボーリング試験を行っていないことでした。県は再三にわたり、Ｂ27 地点でのボーリング試験を実施するよう求めましたが、防衛局は、離れた３地点のボーリング試験結果でＢ27 地点の強度は類推できると主張、Ｂ27 地点でのボーリング試験を頑なに拒否し続けました。

一昨年 12 月、国土交通大臣が代執行で設計変更申請を承認し、昨年１月か、大浦湾側の工事が始まりました。ところが防衛局は昨年８月からＢ27 地点周辺で、２隻の調査船でボーリング試験を始めたのです。防衛省は、「地盤改良工事に先立ち、護岸予定地付近で土質調査を実施している」と認めましたが、「調査のやり直しではなく、別の調査という位置づけ」としています。

あれだけ拒否し続けてきたボーリング試験を、工事が始まるという段階になって、何か月もかけて実施したのは何故でしょうか？　調査結果によっては、護岸の構造や地盤改良工法の変更が必要となります。

私の 2018 年の公文書公開請求では、防衛局は、23 地点の土質調査の報告書を、全く延長せずに 30 日で公開しました。それで軟弱地盤の存在が明らかになり、大きな問題となったのです。また 2019 年には、１万ページに及ぶ数件の土質調査の報告書等を、作成から３ヶ月で、全て国会に提出しました。今回のわずか数地点の土質調査に関する文書の開示・不開示の判断に１年７ヶ月も要するというのは納得できません。

これは、軟弱地盤の土質の実態、地盤改良工事が可能かどうか、等の議論が再燃するのを防ぎ、その前に工事を進めておこうという政治的な思惑に基づいたものと言わざるを得ません。

●市民が公文書公開請求をするのは、その時期に確認するのが必要な文書だからです。開示決定期限が大幅に延長され、はるか先に公文書が開示されたとしてもすでに意味が無くなっていることが多いのです。法 11 条の特例を濫用し、開示決定期限を大幅延長することは、同法第１条の「開示を請求する権利」、即ち、国民の「知る権利」を侵害するもので許されません。

そのため私は本年３月 27 日、那覇地裁に国を被告として、「開示大幅延長の違法確認」・「開示義務付け」を求める訴訟を提起しました。第１回口頭弁論が、６月３日に開催されたところです。皆さんのご支援をお願いするものです。　　(2025.6.5)

2025 年 6 月 18 日東京新聞「こちら特報部」

辺野古土砂全協の奄美での土砂採取についての取り組みが取り上げられました。

東京新聞 21 特報 11版 2025年(令和7年)6月18日

こちら特報部

「自然破壊 絶対反対」
採取に向け奄美で調査

㊧鹿児島県奄美市で土砂使用に反対し、記者会見する市民団体のメンバー
㊨マングローブ林が広がる奄美大島
＝いずれも2024年

土砂の採取先として急浮上した地域もある。世界自然遺産に登録される鹿児島県の奄美大島だ。

県によると、九州防衛局から昨年8月、土砂確保に向け「現地調査を始める」と連絡があり、翌月に「既に開始した」と告げられた。島内で稼働する採石場はこの段階で7カ所あったが、防衛局は調査場所や土砂搬入時期などを明らかにせず、以後も新しい情報はない。防衛省は「調達先は沖縄県内と県外に候補地が複数ある中、現時点では決まっていない」と答えた。

土砂採取の候補地として取り沙汰される地域の市民らでつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」共同代表の阿部悦子さん＝愛媛県＝は「沖縄本島南部は遺骨の問題がある一方、距離的に沖縄に近く、採石業者も多いのが奄美大島。調達先を切り替えようとしているのだろう」とみる。

阿部さんは2015年、奄美の自然保護グループの海底調査を見学した。近くに採石場があり、土砂流出が懸念された。ダイバーが潜ると海底のヘドロにより一部サンゴが死滅するなど被害が確認されたという。

「辺野古への調達先になれば土砂採取が増え、状況は悪化する可能性がある」

島民にも危惧があり、自然保護団体「自然と文化を守る奄美会議」の薗博明さんは「土砂の採取が進めば森がさらに削られ、自然が破壊される懸念がある。基地のために使われるのは絶対反対だ」と口にする。

自然環境だけでなく、生活への影響を危ぶむ声も。

1970年代から採石場が操業する奄美市の戸玉集落は40年以上、粉じんや騒音に悩まされたという。浦口一弘区長は「サッシにほこりが積もり、床がざらざらになる。ひどい時は夏でも窓を開けられない」と話す。2004年には採石で集落の裏山に亀裂が入り、住民たちは約90日間、避難生活を余儀なくされた。

「辺野古への搬入を当て込んでか、休業中の採石場を再稼働させたいという連絡も業者から受けている。辺野古への搬出が正式に決まれば、被害はもっとひどくなる。これ以上は耐えられない」。昨年10月には、地区内の港から辺野古への土砂搬出に反対する請願書を市長に提出した。

奄美の土砂を使うには、他にも問題がある。

沖縄県は15年、特定外来生物が土砂に紛れて県内に侵入するのを防ぐため、県外からの搬入を規制する条例を施行した。元土木技師で沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんによると、16年に那覇空港の増設工事で奄美から石材を搬入したが、採取地でハイイロゴケグモなどが見つかったため、事業者は石材を洗浄した。

北上田さんは「石材なので洗浄という対応を取ることができた。それがあるからだろうが、国側は今回、奄美は石材の調達先として検討している、という言い方をしている」と解説した上で「辺野古の埋め立て工事は、空港とは規模が段違い。全て確認して対策ができるのか」と疑問視する。

石材の用途は護岸の基礎などに限られ、埋め立ては土砂を用いる必要があるため「なし崩し的に土砂に切り替えるのではないか」と警戒し、こう続ける。

「沖縄には辺野古の環境を守るという問題がある一方、奄美にも世界遺産の島の環境や人々の暮らしを守るという問題がある。連帯して中止させたい」

鹿児島県奄美市には陸上自衛隊奄美駐屯地もある＝2023年

粉じん・騒音、外来種混入の危惧 兄弟島で連帯を

デスクメモ

10年前に奄美を訪れ、老闘士とも呼ばれた大津幸夫さんを取材した。戦後は沖縄と同様、米軍統治下に。「沖縄の気持ちが分かるのは奄美」と話す彼は辺野古の計画にあらがい「党派や思想信条を超えて取り組む」と語った。死者への尊厳や環境保全も絡む問題。あの言葉の重みが増す。（榊）

2025・6・18

今は亡き元土砂全協共同代表・大津幸男さん（2022 年 7 月 23 日逝去　享年 89 歳）は、かつて奄美大島返還運動の中心的存在でした。そして 1953 年 12 月、奄美群島は米軍政府統治から返還を実現しました。大津さんは 2015 年の創立以降も、口癖のように「沖縄と奄美は兄弟島」と言われていたことを思い出します。　（編集部　松本）

沖縄県本部町

安和桟橋死傷事件から１年目の集会
恐ろしい国策に負けない

本部町島ぐるみ会議　原田みき子

6 月 28 日は安和桟橋（あわさんばし）の死傷事故から満１年目、本部町島ぐるみ会議は、平和市民連絡会と共催で「追悼と抗議」の集会を開いた。6 月 27 日と 28 日の 2 回、亡くなった警備員さんのための献花と黙祷をし、重傷を負いリハビリに励むＡさんのためにマイクリレーをした。

Ａさんの弁護士から驚くべき報告があった。未だに沖縄県警は、A さんと 2 名の目撃者から、事情聴取すらもしていない。事故加害者側からの賠償手続きが開始されていないことから、任意保険による賠償窓口が設定されず、治療費についても、被害者みずから、自賠保険に対して、「被害者請求」を繰り返さなければならない状況にある。沖縄県警はいったい何をしているのか、国に遠慮しているのか、業者に配慮しているのか、全く責任を果たしていない。

事故で亡くなった警備員に黙とうを捧げる参加者＝6 月 28 日、名護市安和桟橋で撮影

全身の 3 分の 1 の血液を失い、危篤状態だったＡさんは、奇跡的に回復を果たしたが、後遺症が残るという。いつも辺野古や安和塩川に、手作りのブローチやパンを届け続けた優しいＡさん。集会では、お姉さんが預かってきたＡさんのメッセージを読み上げた。一部を紹介したい。

「私は生まれ変わった自分を奮い立たせて、二度と戦争を起こさせないために、1 日も早く元気になって皆さんと共に現場に戻って頑張っていきたいと思います。安和での死傷事故は、防衛局による安全性を無視して工事を急がせた、危険なダンプの 2 台出しによって起こったものです。亡くなられた警備員さんやダンプの運転手さんも、国策の犠牲者です。亡くなられた警備員さんのご冥福を祈ります」

集会の参加者一同、彼女の優しさに感動した。私は「沖縄県民は日本国民だろうか？」と自問した。知事をはじめ沖縄県民の 7 割が反対しても造られる辺野古の新基地。

私は、沖縄に暮らして 27 年になるが、毎日基地反対運動をしてきた。本部町島ぐるみ会議の仲間だけでも、塩川が始まって 8 年間の間に 3 名が亡くなった。Ａさんのように強い意志で命を取り戻しても、事故の認定さえしてもらえない。こんな理不尽が許されていい訳がない。フツフツと国に対して怒りが湧いて来る。この怒りをエネルギーに変えて、明日からの闘いをさらに強化させねば・・・・

集会の最後、平和市民連絡会の北上田毅さんから、とんでもない報告があった。土砂搬出の業者が、塩川の鉱山から港まで、地下トンネルを作る申請を、昨年 11 月に県に出しているそうだ。北上田さんは「民間の一業者のために、国道や県の港湾の地下を掘らせることは許されない。何としても反対しよう」と呼びかけた。私たちの抗議運動に手を焼いて、地下トンネルを使って土砂搬出を企てるとは、呆れて言葉もない。国は沖縄に対してはやりたい放題、血も涙もない。（2025.6.30）

沖縄からの便り
≪連載 №24≫
いちゃりばちょーでー

沖縄戦から80年の現実 …歴史の逆戻りを止めよう！

ヘリ基地いらない二見以北十区の会　浦島悦子

県民の４分の１が命を奪われ、島が焦土と化した沖縄戦から８０年。「命どぅ宝」を心身に刻んで出発したはずの歴史が、今、明らかに逆戻りしつつある。誰かが逆回しするネジの音さえ聞こえるようだ。

県民の声をことごとく踏みにじり、命の宝庫である貴重な自然を破壊しつつやみくもな強行が続く辺野古新基地建設工事、県議会・各市町村議会での抗議決議や県民大会を繰り返してもなお頻発する米兵性犯罪、米軍の事件・事故、琉球諸島から今や日本全体に広がりつつある軍事要塞化、「台湾有事」を口実に、非現実的で住民を愚弄する「避難訓練」、旧日本軍を美化し急速に回帰を強める自衛隊…。

そんな折、沖縄県神社庁などが主催した今年の憲法シンポジウム(5 月 3 日)で西田昌司・自民党参議院議員が、糸満市ひめゆりの塔の説明書きについて、「歴史の書き換え」「沖縄ではむちゃくちゃな教育がされている」などと発言。県内各界の猛反発を受けて釈明したが、発言そのものは撤回していない。

沖縄戦は、「国体(天皇制)護持」を至上命題とする大本営が、本土決戦を遅らせるための時間稼ぎとして行った、沖縄全住民を巻き込んだ「持久戦」であり、沖縄は「本土防衛」のための「捨て石」にされた、というのが、沖縄戦研究や体験者の証言を積み重ねる中で明らかになった史実である。日本軍が沖縄に来たのは、沖縄を守るためではなく日本本土を守るためだった。住民の根こそぎ動員、組織的なスパイ視・虐殺、食糧強奪、壕追い出し、「集団自決（強制集団死)」、そして、沖縄戦の最終局面で多くの住民を戦闘に巻き込み命を奪った第 32 軍の南部撤退など、すべての悲劇は「本土防衛」と県民蔑視の結果である。西田発言こそが、史実と真逆の「歴史の書き換え」であることは言うまでもない。

これに対し、県内では保革を超えた怒りと抗議の声が上がり、これを契機に沖縄戦の史実や本質をもう一度捉えなおそうという動きが強まっている。しかし全国的には、西田発言に同調する声や、発言を擁護した参政党の神谷代表が評価され同党の支持が増えているとも聞く。参議院選を前に日本社会の危うさを感じざるを得ない。

6 月 28 日で発生から 1 年となった安和桟橋での死傷事故を巡る動きも、これらと無縁ではない。その状況の異様さがますます露わになってきた。

まずは警察の動きが見えないこと。死傷事故を起こしたダンプの運転手は逮捕されず、事故現場にいた人の誰も（怪我をした本人も含め）事情聴取を受けていない。市民が情報公開を求めた現場の監視カメラの映像は「ない」とされ、発生から 1 年経った今も、この事故についての警察発表はないままだ。一方、SNS 等では、抗議市民がダンプの前に飛び出し、それを制止しようとした警備員が犠牲になったという当初の警察発表や、抗議市民を「人殺し」呼ばわりする言説が流布され、沖縄県議会では、多数を占める野党・自公勢力が、事故はデニー知事のせいだと吊し上げた。

防衛局は、市民の抗議活動が「民間人による作業を妨げ、民間人に対して危険・危害を及ぼす行為」だと繰り返す。しかし、安和桟橋から搬出される土砂は新基地埋め立てのためであり、事業者は沖縄防衛局だ。敢えて「民間人」と強調することで自らの責任を逃れ、かつ、事故の被害者を加害者に仕立て上げようとする意図が見て取れる。安和桟橋事故を巡る経過は、辺野古新基地建設事業全体の異様さを象徴している。ここでは(国家権力の庇護のもとで)何をやっても許されるということだ。(2025.6.30)

インフォメイション

「沖縄・琉球弧の声を届ける会」連続講座 第８回

日時：2025 年８月 23 日（土）18:00～21:00
場所：沖縄大学本館１階同窓会館

阿部悦子共同代表が
ガマフヤー・具志堅隆松さんと
ともに講師として登壇します

講　　演　（各 25 分）

◇　徳田博人氏（琉球大学教授）
「辺野古最高裁判決によって創られる「統治行為」とその問題点　―なぜ辺野古裁判は負け続けているのか、その仮説回答として－」

◇　加藤裕氏（沖縄合同法律事務所　弁護士）
「辺野古埋立はなぜだめなのか、を改めて確認する」

◇　阿部悦子氏（辺野古土砂全協共同代表）
「奄美群島の軍事要塞化と辺野古土砂搬出」

◇　具志堅隆松氏（遺骨収集ボランティア・ガマフヤー・ノーモア沖縄戦 命どぅ宝の会共同代表）
「遺骨土砂問題から台湾有事へ」

主催：沖縄・琉球弧の声を届ける会（共同代表：桜井国俊・与那覇恵子・丹原美穂）
共催：沖縄大学　　連絡先：090-6868-6232（桑江直哉）

辺野古土砂全協オンライン学習会開催のご案内

≪　第５回　予定≫
「米国の世界戦略と辺野古新基地」
―　グローバルサウスが
　台頭する歴史状況の中で　―　（仮題）
日時：９月開催予定　１９：００予定
講師：高井弘之さん（ノーモア沖縄戦・えひめの会）

申込先：立田卓也
　電話　090-8282-6077
　Mail　tateda.dosyazen@gmail.com
参加費：1,000 円

学習会参加費は、振替用紙通信欄に「学習会参加費」と明記の上、下記の振替口座に振り込んで下さい。
参加のご連絡をお待ちしています。

YouTube チャンネル

@kazsueda で検索

第１回　辺野古埋立てに奄美からの土砂？
　その問題点を明らかにする！〈その１～３〉
第２回　急速に軍事化する奄美大島
　～西日本に拡大する戦争準備態勢～〈その１～３〉
第３回　大浦湾側の工事を止めるために
　沖縄島での海砂採取を中止させよう！〈その１～４〉
第４回　辺野古は今どうなっているのか？
　工事の現状・問題点 と 4.10 防衛省交渉報告〈その１～６〉

第 1～4 回オンライン学習会は、You Tube で見ることができます。
QR コードをご利用し、ぜひごらんになって下さい。

≪辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力30号≫　2025年7月15日
発行責任者…全国連絡協議会共同代表　阿部悦子（環瀬戸内海会議）　hibi_etsuko@yahoo.co.jp
　大谷正穂（山口のこえ）　masahootani@gmail.com
編　　集…松本　宣崇（環瀬戸内海会議）　nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
HPURL…http://dosyazenkyo.com/index.html　「土砂全協」で検索して見てください
事 務 局…〒700-0973　岡山市北区下中野 318-114　松本方　TEL･fax　086-243-2927
連 絡 先…〒794-0026　愛媛県今治市別宮町9-7-4　阿部悦子　TEL　090-3783-8332
振 込 先…郵便振替　番号　01750-8-144158　名義　辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会